



鍛冶ゆう子 陶展 2015.9/24(木)～9/29(火)

「陶」の質感を思い浮かべると、普段日常にて使用している釉薬が掛けられたお茶碗や湯飲み・マグカップ・お皿など、つるつるとしたガラス質で有りながらガラスとは違った暖かみのある印象が直ぐに思い浮かびます。ガラス＝透明なコップ・瓶という印象が有るように、陶器もまた、先程述べたかのような印象で一括りにしてしまいがちですが、多種多様にある釉薬をただ掛けるだけでは、個性溢れる「表現」を陶器の表面にのせるだけではとても難しい事でも有ります。

今回、展示をされている鍛冶ゆう子先生の特徴は、何と言っても陶器の質感にあります。釉薬の印象を打ち破る豊かな表情・表現があり、何層にも重ねられた粘土が、本来持っている粘りを最大限に活かされ、自然に途切れた表情は、まるで歴史が刻まれた大地の様に、ドラマティックな印象を与えてくれます。また、造形された有機的なフォルムは生命力溢れる動きを感じとることができ、より一層陶の質感を引き立てます。その他にも、土を削り手では表すことが出来ないシャープさが先程と違った動きを生み出し、風や水が砂を掘ったような柔らかな優しさを持った表現であったりと様々な印象を与えてくれます。土の特色を活かし、また土の色を楽しむ作られた作品は土の有限さを感じさせず、作品のそれぞれが表現の無限性を感じ取ることが出来ます。

会場にはオブジェの他にも、コップやお皿・アクセサリー・花器などが展示されました。粘土で作られた向日葵は、どこかアンティークのような印象を与えます。女性に人気であるアクセサリーはビビットな色が、土の色などのコントラストと相まって彩りを楽しむことが出来ます。



遠い記憶の泉

* 画像・イラスト等の保存・無断使用・転載・二次利用等は堅く禁止します *